

八中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第5号
2020年 7月28日
編集・発行 吉成正士

八中1年人権作文発表会を終えて第2弾

人権作文発表会の感想第2弾です。今回もいろんな感想が載ってて勉強になります。

今日6人の発表を聞いて、いろんな人権問題・差別が身近にあるんだなと思いました。Tさんが言っていた「男のくせに」「女のくせに」という言葉を、私は差別と思っていませんでした。多分、今までによく耳にしたからだと思います。こんなふうに、差別と違っていても、差別をしたり、差別をされていたりしてんだなと感じました。

自分らしくしていくのはとても大切なことだと思います。そうすることで、自分に自信をもつことができるからです。もし友達がいじめられていたら、自分らしくしていくことで、止めることができるかもしれません。

今日発表した6人以外の人でも、作文がちゃんと書けていたので、すごいと思います。6人は声も大きくて、ハキハキしていて、とても良かったと思います。発表についての意見もとてもいいことを言っていました。人権作文発表会では、いろんな人権問題や差別を知れていい機会でした。

TG

これからの友達との関わり方や、自分のする行動に気をつけていきたいと思いました。差別は本当に身近にあって、自分が差別をしていないと思っていても、いつの間にか無意識にやってしまうかもしれないので、心がけて生活をしていきたいと思いました。

学校に楽しく行けるというのは、クラスのみみんなと仲良く、優しく、支えてくれて、助けてくれるから、学校に楽しく行けるんだと私は思います。友達がいて本当に良かったと思いますし、仲良くしてくれていることにも感謝しています。自分は自分らしく生きていけたらいいなと思いました。もし自分が悪いことをしているなと思ったら、それを続けてやるのではなくて、正しくしていけたらいいなと思っているので、正しいことをしている人を見習っていききたいなと思いました。

男女差別については、男子も女子も同じ人間同士なのに、男子と女子で分けて差別をするのはおかしいと思いました。男女差別をしている人には、同じ接し方をしてほしいと思いました。

6人の発表はとても素晴らしいと思いました。とても心に残っています。思いやることは大切なんだと心強く思ったし、これからも友達を大切にしていきたいと思いました。

MO

みんなで人権について話し合うと、改めて差別をやめようとか、差別を無意識にしていた人がそれは差別と気づいたりして、差別がなくなっていくそうでした。

みんなの話や感想を聞くと、今までアニメやマンガの

中だけとっていたいじめや差別が、意外と身近にあって、自分も知らない間に無意識でいじめや差別をしてしまっていたのかなと思って、少し反省しました。

今特にコロナウィルスの中で差別が増えたりしているので、今までより真剣に意識して差別をしない自分に変えていかないといけないと改めてよく感じました。

女らしくとか男らしくないとかの男女差別は、とても良くないと思いました。そのせいで、自分らしく生きられない人や自分を隠して別の人を演じてしまう人もいることに気づいたからです。

世界には、いろいろな差別問題があって、それは一人一人の意識が大切だと思い、これから心がけていきたいと思いました。差別やいじめのない世界になってほしいです。

YA

6人の人権作文を聞いて、とても勉強になりました。みんなそれぞれの意見があり、それぞれ経験をしていて、うまく文章に組み込まれていて、すごくわかりやすかった。今までの自分の何気ない行動や何気ない言葉が、誰かを傷つけ苦しめたかもしれない。私はなるべく人を傷つけないよう、差別しないよう心がけてはいますが、今回の作文発表を聞いて、みんなやろうと思っていても知らない間にやっちゃっていることが分かりました。なので私は、言葉にする前に、一つ一つチェックするようにすれば、必ず言葉が自分を通るので、知らない間に、などにはならないだろう。

他にも、「自分が自分らしくいける世界」というフレーズが心に残りました。やっぱり自分が自分らしく生きられなければ楽しくないし、面白くもないだろう。自分らしさを発揮できなくても、同じような気持ちになるはず。普段生活しているだけでは気づかないことも改めて気づかされた。

YM

「男のくせに」「女のくせに」というのは、人によって感じ方が違うのかもしれませんが、でもその「違い」を分かっておくことは大切なことです。確かに日頃からよく聞いていると、麻痺してしまい、いつの間にかそれが当たり前になってしまうものです。そこが怖いですね。この4人に共通して言えることですが、差別意識はいつの間にか、無意識のうちに、自然に、知らない間に、スッと入り込んで、さもそれが当たり前のようにになってしまう怖さがあります。その危うさは、誰にもあるものです。だからこそ、こうやっている人々と話し合うことで、自分の中の当たり前が、「当たり前じゃないかもしれない」と点検することが大切なんですね。そう考えていくと、「差別やいじめのない世界になってほしい」と、願っているうちはなくなるのかもしれませんが、なぜならば、なくせるかどうかは、私たちにかかっているのですから。

教室が楽しく思えるのも思えないのも、そのほとんどが人間関係にかかっていると言っているといいでしょう。

勉強や部活動が思い通りにいなくても、そこにあたたかさを感じ、居場所があれば、それだけで楽しく思えるものです。そしてそれがあれば、勉強も部活動もうまくいくものです。すべては人間関係が鍵を握っているのです。だから、友達に「感謝」なんです。

こうやってみんなで学び合える機会は特別な場であり、非日常の世界です。大切なのは日常です。せっかく気づいた非日常の学びを、日常に生かせるかどうかです。その鍵が、人間関係にかかっているということです。

て言うのは考えられないぐらいのレベルでした。みんな「世界を豊かに」、そして「ハッピーな地球を」という感じでびっくりして、7回も発表しました。

今後この発表を聞いて直すことがいっぱいなので、少しずつコツコツと直していこうと思います。豊田さんが言っていた、ありのままの自分であることが大切という言葉聞いて、自分も変えようと思ったことがあるけど、そんな自分の首を自分で絞めるような真似はしません。せっかくお母さんが産んでくれたのに、それを変えるというのは絶対に駄目だと、このみんなの作文を聞いて思いました。 FT

今回の人権作文発表会は、とても有意義なものだったと僕は思う。人権とは何か、いじめとは何か、差別とは何か、人間とは何かを改めて考えさせられる時間になった。発表してくれた人たちはわかりやすい説明とたとえや実例を使い、とても共感・理解・納得できた。

友達の大切さ、尊さを感じられた。困った時や悲しい時の友達からの一言は、何物にも代えられないものだと思う。周りの目が気になったり、怖かったり、変えたいのなら、まず自分を変えなければならぬものなのだと気づいた。そうするにはとても勇気が必要だが、その一歩を踏み出した時には、きっと自分が変わると思う。

近年、同性愛等の問題が受け入れられるようになってきている。僕もそれでいいと思う。発表にもあったように、人間は本来、他人を好きになるものだ。それに第三者が批判的な言葉をかけるのは、言語道断だと思う。それを妨げずに、まかり通るべきだと思う。

NM

こうやってみんなで人権について話し合っていけば、必ずと言っていいほど、いつも出てくるテーマがあります。「人権とは」「差別とは」「人間とは」「仲間とは」「普通とは」「生きるとは」「幸せとは」そのたびに深く考えさせられます。今回もその一つとなりました。またいつか、こんなテーマについてみんなで語り合いたいです。

それから、友達の一言が大切なのなら、自分の発する一言も、大切なはずです。言葉は日頃思っている気持ちの表れです。日頃思っているから、自然に出てくるのです。ということは、日頃自分がどんなことを思っているのかを、今一度点検しなければならないのかもしれない。

同性愛等の問題は、今回「LGBT」という言葉で発表されていました。実は、まだまだ受け入れられていないのが実情です。もっと詳しく学ぶ必要があるし、当たり前な存在として、普通に受け入れられていかなければなりません。また、学習していきましょうね。

今日5,6時間目人権作文発表会があって、いろいろな人の意見作文を聞いて、すごい体験をしている人が多くて、特に多かったのが差別で、自分を捨てずにずっと一緒に自分であるという意見があったり、いじめがありそれは止めようとささやく一人の声、その声から世界が動くと思います。

自分のことだけじゃなく、人のことまで6人みんな心配していたのでびっくりしました。だからあの6人はすごいと思います。あれだけの人数の中で大きな声を出し

体験したことを書いてくれる人が多かったことも、素晴らしいことでした。それに、いじめや差別に飲み込まれずに抵抗しようとした姿も見られました。そんな一人が増えていくこと、そんな仲間を増やしていくことが、誰もが過ごしやすい社会への一歩なのです。

人は変われます。そう願ひ、少しずつでも行動にうつしていくことで、必ず変わるものです。ただ、変わっていいことと、変わらなくていいことがあります。自分の信念を曲げてまで、人に合わせて変わる必要はありません。変えた方がいいことは、勇気をもって変える。変えたくないことは、勇気をもって変えない。その見極めを、しっかり考えることです。

* * *

人種差別やコロナ差別の話が出てきたとき、「虫けら」という言葉が頭に思い浮かびました。同じ人間であるにもかかわらず、人でないような扱い、虫けらのような扱いを受けてきた、多くの被差別の歴史。

映画「アミスタッド号」で描かれた、約200年前のアメリカにおける黒人への扱い。

小説「熱源」で、明治から昭和初期にかけて描かれたアイヌの人々の姿。

4年前、相模原市で起きた障がい者施設津久井やまゆり園における障がい者殺傷事件。

これまで出会ってきた多くの被差別部落出身の人々や在日コリアンの人々。

また、過去に、そして現在も、世界各地で起きている紛争や戦争に巻き込まれた人たち。

ビールのCMで使われている「This is Me」が主題歌の映画「グレイテスト・ショーマン」では、黒人や生まれつき色素が少ないアルビノの人、全身に刺青のある人、極端に背が高い人や低い人、ひげの濃い女性、多様な人々が「This is Me!」と自らの生きる尊厳を取り戻すために熱唱する場面があります。

これらはすべて過去の話でも映画や本のなかの話ではなく、今もなお私たちの心に深く根づき、この社会を作っています。私たちに根づいたものならば、私たちの努力次第で変えることもできるはず。それはいったい誰がするのか。私です。

あなたです。その一人にみんながなることで、この世界は変えられます。

中学校での人権学習はまだ始まったばかり。これからです。

